

東日本大震災の被災者の皆様、がんばってください。

**そして、釜石最後の芸者 伊藤艶子(舞踊名・藤間千雅乃くちかの>)さん
夢を諦めず、がんばってください。東京の花柳界があなたを応援しています。
芸者として復帰し、藤間千雅乃の芸をお客様に披露出来る日が来ることを願っています。**

東日本大震災で多くの方が犠牲になり、今も多くの方が
避難生活を強いられています。

その中に岩手県釜石市の最後の芸者 伊藤艶子(舞踊名
藤間千雅乃くちかの>)さん(84)がいます。津波で家を失い、
避難所生活を送っていました。現在は、体調を崩され病院で入院
されているとお聞きしています。



岩手県釜石市で、安藤龍朗撮影

伊藤さんは12歳で踊りを習い始め「釜石の奥座敷」と呼ばれる老舗料亭「幸楼(さいわいろう)」で
修業されたそうです。

芸に生きた人生の集大成として、米寿で引退披露するのが夢だったそうですが、この震災で命の次に
大事な着物、三味線も瓦礫に埋もれてしまいました。伊藤さんは取材に来た新聞記者の方に「応援
してくれた人も津波で亡くなったの。でも負けていられねえ。米寿までまだ3年あるから必ずやりたい」
と強く語っていました。

我々、日本お座敷遊び協会では、伊藤さんに早く元気になって戴き、震災に負けずご自身の夢で
ある“米寿まで現役”を叶えて戴きたいと思っています。その為、協会では八王子花街の芸者衆の方
や東京の花街の方々にお声を掛け、同じ花柳界に身を置くものとして、伊藤さんの夢を応援出来れ
ばと思っています。

伊藤さんがんばれ！！ 早く元気になって、芸の道に戻ってください。伊藤さんの夢を応援します。
この度は、東日本大震災にてお亡くなりになられた方々やご遺族に心よりお悔やみ申し上げます。
また、連日連夜の救出作業を行っている救助隊の皆様におきましても、どうかお気をつけて下さい。
皆様のご無事を心よりお祈り申し上げます。

平成 23 年 4 月 4 日

日本お座敷遊び協会 会長 鈴木正秋